



one for one, all for one

昨日の通信の会話におけるフィクション部分は（もうおおかた予想はついていると思われるが・笑）、主として担任のH先生の発言部分である。あのH先生はなかなか立派な先生のように、先生のご発言の中には、ずいぶん聞くべきところがあるように思うがいかがだろう。ところで、今これを書いている（ホンモノの？）担任は、4月のWe第一号にこう書いている。

*

メンバーが変わらないことでイイこともある。もうそれぞれの人の性格や、このクラスとの関わり方の特色なども、何となく分かってくるはずだ。だから、余計な緊張を強いられることも少ないだろう。

そこで担任としては、そうして分かってきた個々人の持ち味の「イイ面」を、しっかり生かせるようなクラスになってほしいということを願うのである。誰にでもイイ面と悪い面がある。その悪い面ばかりに注目してその人を評価したり、クラスの中に位置づけたりし続けると、クラスの雰囲気全体が悪い方向に流れてしまうものだ。世間で騒がれている「イジメ」というのも、そういう流れの中で生じて来てしまうことなのではなかろうか。

だから、35Rでは、ぜひその人の持っているイイ面に着目して、そのイイ面が生かされ・伸ばされるような雰囲気をつくる努力を、皆でしてほしい。

例えば、それぞれの科目には、それぞれその科目が好きな人がいるに違いない。とすれば、どの科目の授業時間も、その授業を受けてイイ結果を出したいと思っている人にプラスになるような雰囲気を、クラス全体でつく

っていきべきではないだろうか。リレーが好きな人、合唱が好きな人、ライオンが好きな人もいるだろう。とすれば、その人たちが思いっきり自分を出せる雰囲気を、クラス全体でつくってゆくべきではないだろうか。部活動にかけている人に対してもしかり。

担任が唯一望むのは、そういうクラスになってほしいということである。そして、もし本当にそういうクラスになることができたなら、色々な結果（行事の成績、進路の結果など）は自然とその後についてくるはずである。良い結果を目標として追い求めるのは当然だが、その結果に至る過程の中にこそ、クラスの真価が問われる局面が、そして、君たちが大きく成長する局面があるに違いないと担任は思っているのである。

*

さて、前期を通して「そういうクラス」になることができただろうか。君たち自身の評価はどうだろう。私は、行事の結果やその結果に至る日々の過程を見てきて、「できた」と言っているのじゃないかと思う。

そして、前号にも書いたが、いよいよ「クラス」から「個人」が大切になる時期となってきた。だから、これまでに蓄えたクラスの力を発揮しつつ（例えば、授業を大切にするとか）、一人一人の個人が、それぞれの目標を達成する際の基盤となる場所に、35Rはなってほしいと思うのである。

今までは「one for all, all for one.」、つまり「一人はみんなのために、みんなは一つの目的のために」であったが、受験に関しては「one for one, all for one.」だろう。